

シンフォニアテクノロジー 2025 年度決算説明会 質疑応答(要旨)  
(2026 年 5 月 26 日(火))

【回答者】

代表取締役社長 山国 稔

Q 社長就任により会社をどのように舵取りしていきたいですか。また、ご自身に求められている役割は何と考えますか。

A 現在は事業環境が非常に良好な局面にあると認識しており、基本方針をぶらさず当社の強みである技術力を一層高め、さらなる事業拡大につなげていきたいと考えております。4つのセグメントがそれぞれ成長を遂げている中で、事業全体を俯瞰して最適な方向へ導くことが、自身に求められている役割であると考えております。

Q 航空宇宙関連で、中長期的に生産能力のさらなる引き上げが必要になる可能性がありますか、どのような対応を検討していますか。また、防衛各社でキャパが不足しているため、他社と共同で生産するようなビジネスの可能性はありますか？

A 今後の需要拡大を見据え、生産能力のさらなる強化は重要な課題であると認識しております。新たな工場の建設についてもすでに検討を進めており、社内で具体的な協議を行っている段階です。  
また、売上の拡大には、技術力の強化も重要であると考えています。本年 11 月には名古屋に技術開発センターが稼働する予定であり、同拠点を活用し、技術者の育成および技術レベルの底上げに注力してまいります。なお、生産に関しては特殊な設備が必要ですので、自社工場で生産する方法が最も効率が良く、他社と協業することは現時点予定しておりません。

Q 今後、輸送用ドローンやマイクロ波分野にも関与するとのことだが、具体的にどの領域を担うのか。また、他社と比較した際の強みは何ですか。

A 個別案件の詳細については開示を控えますが、当社としては主に電源やモータといったコンポーネント領域での参入を想定しています。長年にわたり培ってきた技術力や実績、信頼性を総合的に評価いただいているものと認識しております。

Q 防衛の受注見通しは GDP 比 3% など、どのような前提としていますか。

A 国の予算について現時点で申し上げられることはありませんので、具体化している案件をベースに保守的に見積もっております。

Q 防衛の受注高は毎年見通しを上振れているが、どの領域でアップサイドが発生しているのか。

A 計画策定時に確実となっていなかった案件の前倒し受注が継続的に発生しており、これが受注上振れの主な要因となっています。

Q 2026年度の業績見通しには中東情勢による影響を織り込んでいますか。

A 現時点では、部材不足の顕在化は想定しておらず、業績見通しには中東情勢による影響は織り込んでいません。

一方で、長期化すると、供給面でのリスクがあるので代替品・ベンダーの複数化などの検討を進めています。

Q クリーン搬送システムは稼働率に余裕があるように見えるが、受注残が積み上がっているのはなぜでしょうか。

A 受注残が積みあがっているのは、受注・納期のタイミングによるものです。

クリーン搬送システムの生産能力 600 億円は、ロードポートの組立を担うタイ現地法人と、EFEM の生産をメインとする豊橋製作所を合算したのですが、足元では、ロードポートの需要増加を背景に、タイ現地法人の稼働率は着実に上昇しています。

Q 半導体関連分野における EFEM の新規提案の進捗状況はいかがでしょう。

A ロードポートでの実績と、技術力を背景としたカスタマイズ対応力を強みとして、複数の顧客に対し提案を行っており、現在は 3 社と具体的な商談を進めている段階です。

商談においては、新技術に対する要望や既存製品の改善ニーズなどを丁寧にヒアリングしながら、受注獲得に向けた提案活動を進めています。

Q 半導体関連においてロードポートのシェアアップはどのように実施していますか。

A 当社のロードポートはすでに高い市場シェアを有しており、従来領域におけるシェアの大幅な上昇余地は限定的であると認識しております。

一方で、PLP (パネルレベルパッケージ)・テープフレームなどの新しい工程に対応したロードポートの提案を SPE だけではなくデバイスメーカーに対しても実施しています。この辺りがシェアアップの要因となっています。

Q 新規規格 PLP 対応により、ロードポートのシェアはどう変わりますか？

A PLP 対応においては、新素材や 500mm・600mm といった大型基板への対応が求められています。装置全体の大型化に伴い、ロードポートの単価の上昇や、対応 EFEM への需要が見込まれます。

当社では、ロードポートの試作機を先行して納入しており、現在は装置メーカーにおいて評価・検証が進められている段階です。

詳細な仕様については現時点で流動的な部分も多く、本格的な仕様決定は 2028 年頃になる見通しですが、今後は新しいロードポートにおけるシェア拡大はもとより、新たな EFEM やロボットについても開発や検討を進めており、ビジネスチャンスだと考えています。